

平成24年度 森プロ事業実績：中沢森プロ（恵南第2）

（平成25年4月末現在）

	H21～23年度		H24年度				5カ年	
	計画	実績	計画	実績	達成率	備考	計画	
集約化(ha)	493	370	104	96	92.3%	人工林のみ	598	
作業道(m)	4,740	618	300	0	0.0%		5,340	
間伐等	面積(ha)	298	279	75	94	125.3%	利用+切捨	448
	材積(m ³)	5,900	2,342	2,700	2,337	86.6%	支障木含む	11,300
備考	団地外実績(利用間伐:189ha、搬出材積:4,498m ³ 、作業道開設:928m)							

H24年度利用間伐等における所有者への還元額(補助金含む)

1,285円/m³

施業集約化の状況

- ・上・中・下の3地区ごとに森林整備推進員を各1名設置し、集約化を実施。
平成24年4月末日、全エリア(施業の同意取付け)完了。

施業プランの活用状況

- ・社内的なプランナー研修にて、各種係数を設定した単価を算出中。
- ・予定搬出量50m³/ha以上となる箇所については、簡易見積書を提示。

施業プランナー等の養成状況(H24年度)

- ・平成24年度施業プランナー育成研修(基礎研修)1名、施業プランナー上級研修1名受講及び、森林施業プランナー認定1名。

作業道等の状況

- ・4年目も以下の理由から作業道の新規開設は未実施。
「費用対効果が明確になるほどの事前林分調査がされていない(事業計画の甘さ)」
「対象エリアへの作業道の必要性に疑念を感じたため(同上)」

作業システムの状況

- ・標準架線システム:伐倒・造材・枝払:フェンソー→集材:タワーヤード、ラジキヤリー1.0t→積込・運搬:クレーン付き8tトラック

※当森プロエリアにおいて、平成24年9月から平成25年3月の間、架線集材(タワーヤード)の作業特性と作業コストの解明に向けて、岐阜県森林研究所と連携し作業調査を実施した。

その他

- ・平成24年11月5日から11月10日までの6日間、恵那市上矢作町において県主催による『平成24年ドイツ・フォレスター研修会』が開催された。当組合より12名が参加し、恒続林と将来木施業・チェーンソー伐倒技術・作業システム(タワーヤーダによる架線集材)・作業安全について研修を受けた。
- また、平成25年1月22日には当組合事務所において、県関係者の方々や参加出来なかった組合職員に対して、当研修会の『レポート発表及び意見交換会』を開催した。

研修受講状況



レポート発表・意見交換会開催状



森プロの成果

- ・集約化から施業実施に至る森林管理手法(森プロ団地内を大・中・小エリアに区分)が確立されつつある。
- ・実施から四年目が経過し、生産エリアの約95%が完了した。エリア内の在村所有者の方々からは、整備に対する感謝の声が聞こえる一方、仕上りの粗雑さ(皮剥け)や、精算・完了報告の遅さが指摘されている。
- ・他地域での森林経営計画策定の際、当森プロ事業の実績数値が、所有者との経営委託契約時の説明材料となっている。
- ・今年度実施したエリアのうちの一つを、50ha規模(施業担当チーム6名)とし施業期間を6ヶ月間としたところ、以下のような成果・発見があった。
 - ★地域住民と森林技術者との直の交流(現場を間近に見て頂き、施業内容を説明した)
 - ★数か所の搬出現場を同時進行で進めたため、重機資材の稼働率がアップした。
 - ★各現場の伐倒を先行実施した為、葉枯らしによる搬出材重量の軽量化が図れた。

今後の課題

- ・岐阜県森林研究所とのタワーヤーダ作業調査の結果報告を受け、架線距離・集材重量など、今後の作業コスト削減に向けた取り組みの指標とする。
- ・エリア内の森林づくり方針に基づく、詳細な搬出施業設計が出来ていない為、提案型集約化施業を進める上で必須である『施業プラン書』の提示が出来ていない(口頭による収支説明にて承諾を得ている)。今後は、施業担当者チームと協働で施業設計を行うとともに、施業単価の精度を高めるための、各工程過去データの収集を
- ・ドイツ・フォレスター研修で学んだ『将来木施業』を、森林づくり方針の一つと位置付ける為の、所有者向け施業内容説明資料の作成、モデル林設置に取り組む。
- ・施業完了後の速やかな、精算と完了報告を実施する(補助金受領後2週間以内)。
- ・施業完了後の作業道の補修に係る作業費の捻出先を検討する。
- ・他地域での、当森プロエリア規模山林の森林経営計画策定に取り組む。